

第 5 3 2 回 遊佐町議会定例会一般質問通告書

令和元年 9 月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	4 番 佐藤 光保 (一問一答)	<p>1. 小学校 5 校統合について</p> <p>2. 地域公共交通の確立と庄内北部定住自立圏構想について</p>	<p>(1)本町と似た人口・面積規模のところでは 5 校統合、一町一校のような事例はあるか。</p> <p>(2)廃校学区にとっての行政の継続性について</p> <p>(3)地域の基本は小学校区といわれるが、これを一つしかなくして如何なる町づくりを考えているのか</p> <p>(4)この課題について、町長と町民の対話は十分に行われているのか</p> <p>(1)現時点における進捗状況について</p> <p>(2)来年度以降の取組みについて</p>
2	7 番 菅原 和幸 (一問一答)	<p>1. 教育環境の変遷への対応について</p>	<p>現在の 5 小学校を、令和 5 年 4 月 1 日を目途に、現遊佐小学校の位置に新たに 1 小学校として開校するための開校準備委員会が組織された。本年度第 1 回総合教育会議において、小中一貫校の検討も必要とする旨、町長と教育長の発言もあったようである。今後における検討項目となるのか伺う。</p> <p>現在の小中校舎は、昭和 6 3 年に「1 中・6 小」との適正審からの答申を受け、平成 5 年の新中学校開校から平成 1 9 年の吹浦小完成までの期間で整備された。新小学校開校となった場合、4 小学校は普通財産となるが、空き校舎の利活用の検討は、どこが主体となり進めるのか伺う。</p> <p>県教育委員会は、田川地区の県立高校再編計画のなかで、県立の新中学校を併設する「中高一貫校」を令和 6 年度に設置するとしている。本町も支援する遊佐高校、遊佐中学校の入学者への影響、若者定住施策への影響等について所見を伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	2 番 那須 正幸 (一問一答)	1. これからの遊佐町の未来ビジョンは	<p>町長挨拶の中に「新たな時代を切り開くため未来を見据え」とあるが今年、合併65周年の節目と、令和という新しい年号の歴史の始まりと共に遊佐町も大きな転換期に来ていると思われる。人口減少と共に税収の見込みも減っていく中で、これからの遊佐町に一番必要なのが「働き場」ではないでしょうか。今まで以上の人材雇用がある産業、企業の誘致が求められている中で第8次遊佐町振興計画の基本構想の中でもしっかりと定住促進や移住促進を図るためにも「働き場の創出」が必要と明記されております。どのように、オール遊佐の英知を結集させ、これからの遊佐町を創り上げていくのか。又現在吹浦の漁村センターで行なっている「アワビの養殖」が4年目を迎え約1000万円の予算を計上しておりますが、今後どのような形で遊佐町の産業として結びつかせて行くのか、又町民への還元をどう考えているのか、今後のビジョンを伺いたい。</p>
		2. 当たり前が通用しない災害対策は	<p>6月18日に発生した地震を受けて我が町の防災組織のあり方が再度問われる課題が、多く発生したと思います。中でも地域によって防災の認識の違い、避難場所と避難所の違い、避難所開設に伴う開錠やリーダーの存在の有無など多くの課題が残りました。防災マップの製作と共に各地域での自主防災組織の活動内容を伺いたい。</p>
		3. 遊佐中学校の通学バスの運行と災害時の運行マニュアルの有無は	<p>11月より遊佐中学校の通学バスが1キロ圏外においてバス通学となるとの説明がありました。バスが入っていけない地域でのバス停の設置や、自転車通学のほうが近い生徒への対応、通常時のバス運行マニュアルに加え災害時のバス運行マニュアルは設置されているのか伺いたい。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	8 番 赤塚 英一 (一問一答)	1. 遊佐高等学校への支援と対策は	今年度の入学生が大きく定員割れをし、来年度も今年度同様の状況になった場合遊佐高等学校の統廃合が現実になる。 定員割れを防ぎ、高校存続を続けるための支援と対策を町はどのように考えているのかを伺う。
		2. 水産振興の今後は	現在、アワビの陸上養殖の実証実験を行っており、副産物のナマコもその成果も満足のいく結果と聞いている。 また、大手水産加工会社を中心とした、サクラマスの養殖事業も併せて当町の水産事業も、今後大きく発展していくと思うが、今後の考えを伺う。
5	5 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 農業振興をどう進めるのか	町の基幹産業が農業であることは言うまでもないが、数多くの課題を抱えている。今回は特に次のことを中心に議論を深めたい。 ①次世代をどう確保し育成するのか。 後継者不足が長い間言われ続けてきたが、いよいよのつびきならぬ局面に直面している。「事業承継」などの視点も取り入れ、不転の決意で臨むべきと考えるが。 ②家庭菜園をいかに維持するのか。 各家庭における「家庭菜園」は栄養バランスの確保や農作業を通して高齢者の健康増進に大きく寄与しており、その効果は相当あると考える。しかしこれからの世代は、いわゆる野菜作りにあまり積極的ではないように思われる。ミニマムの農業をどう維持していくのか。
6	1 番 本間 知広 (一問一答)	1. 賑わい創出の一環としてチャレンジショップ(仮称)を造ってはどうか	地域から商店がなくなってきていることは非常に寂しい限りである。以前はどここの集落にもお店があったし、中心街でも同様に商店は減少している。高齢化、少子化などの社会的な環境の変化が大きな要因と考えるが、何もしなければより減少の一途を辿るのは目に見えている。空き家、空き店舗、空きスペースを活用し、特に移住される方々に紹介できるような場所を造ってはどうか。地域に商店ができれば雰囲気も変わるでしょうし、定住の一助にもなると思うが町の考えを伺いたい。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
6	1 番 本間 知広 (一問一答)	2. 比子地内産直施設「旧八福神」の全体的な活用のビジョンは	今年度、「遊佐町地域活性化拠点施設」として利活用がスタートした比子地内産直施設「旧八福神」であるが、現在は加工施設の整備が予定されてはいるものの、まだまだ空きスペースが残っている状態である。今後の町の構想について伺いたい。
7	6 番 松永 裕美 (一問一答)	1. 災害時の避難所生活について	①町内に福祉避難所は何ヶ所、どこに指定されているか。また災害時、弱者(障がい者・高齢者)の方々の受け入れ体制は。 ②妊婦の方や授乳時や、女性の方々の着替え等に必須な間仕切り等を各避難所に生活備品として加える必要があるのでは。 ③同行避難(ペット等)した際の混乱やトラブルを防ぐ為の避難所での住み分け対策と啓蒙について。
		2. 東京2020オリンピック聖火リレー遊佐町通過に伴う町のPR企画について	2020年3月26日に福島県を出発した聖火が遊佐町を通過するのが6月8日に決定とオリンピック公式ホームページにすでに掲載されている。町の知名度をあげ、農産物・海産物・畜産・山菜等を全国に大々的に発信できる好機(ビッグチャンス)だと考えるが、町としての施策は。
8	9 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. まちづくり事業に望むこと	中央公民館が生涯学習センターに名前が変わり、地区公民館はまちづくりセンターに。まちづくり協議会として地域運営を担ってきた。この間にも町の人口は減少し、当初の狙いや課題は変化してきている。そこで、次の項目を中心に考えていきたい。 1. 活動を支える人材や事務局運営の人材は確保されているか。 2. 活動資金は不足していないか。 3. 地域住民の当事者意識は。 4. 自主防災組織の現状は。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
9	11番 齋藤 弥志夫 (一問一答)	1. ジオサイトの整備にクラウドファンディングの導入を	個別のジオサイトの整備は各市や町で行うことになっているが整備についてはジオパーク認定以前と同じである。ジオパークは予算がないわけで、ジオサイトを整備できない状況が多々起こっている。町内のジオサイトの整備に資金集めとしてクラウドファンディングを提案するものである。これまで猫の去勢と松くい虫対策の2つで行われてきたが、それぞれ100万円強、40数万円ほど集まっている。丸池様や胴腹滝の整備にクラウドファンディングを用いるのも一つの方法であろう。
		2. 小学校の統合には100%町民の理解を	遊佐町教育委員会は各学年が2～3学級となるように1校に統合し、2023年4月1日に新小学校を開校し、設置場所は現遊佐小学校とする基本方針を定めた。統合について大方の理解は得られているようだが、現状でも良しとする少数の考えの方も中にはいるようだが、このような少数意見の人達に対する説明や説得をどのようにするのか。できれば100%町民の理解を得た上で統合するのが理想的である。
10	3番 佐藤 俊太郎 (一問一答)	1. ごみ処理基本計画について	同計画の進捗状況についてお伺い致します。 (1)目標値600gに対し、平成30年度の実績値はどのようになりましたか。 (2)本年春に実施した粗大ごみ収集で自転車は何台集まりましたか。それは最終的にどのように処理されましたか。
		2. 高齢者の交通事故防止対策について	高齢運転者による重大交通事故防止対策として、スマートドライバー運動等の啓蒙活動を実施中です。 更に衝突被害軽減ブレーキ搭載車両購入費用の一部補助を実施する予定はございませんか。
		3. 河川管理について	二級河川月光川に接続する準用河川、普通河川について、町管理の河川はどれ位ありますか。お伺いいたします。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1 1	10番 高橋 冠治 (一問一答)	1. 大学生等の交流人口拡大に向けた町の考えは	<p>わが町には夏期を中心に多くの学生が訪れている。</p> <p>その目的は多岐にわたるが、学生にとって遊佐の魅力は何なのか、また学生と町民の関わり方はどうなっているのか、実態が把握できていない。若者の交流人口の拡大は、しいては若者定住にもつながる。一元的に対応する必要がある。</p>
		2. 遊佐高等学校の県外入試希望者への来期に向けた対応は	<p>来年度入学者確保のため全国4ヶ所でプレゼンを行った結果、体験プログラムには7組の親子が参加し、概ね好評であった。県外入学者が現実化しつつある。受け入れ体制は整っているのか。</p> <p>一方、県教委通達の入学者選抜実施要項は実態に合わず、志願者が遊佐高校を選択しにくい状況にある。県教委には強く改定を求めるべきと思う。</p>